

## 北海道のうたごえ創作合宿にて

### 何の衞いもなく詩（うた）が作れたらいいなあ！

『誰でも作詞・作曲家！』という北海道のうたごえ創作合宿に27日（1日のみ）参加することが出来ました。大間原発について・詩を詩（うた）にするための学習など、膝を突き合わせての学習会は、とても温かみのある和やかな雰囲気でした。



外は真っ白な雪、木のぬくもりのする保育園の一室で、幼児が座ったり、

テーブルにしたりできる椅子に座り、20数名の全道の仲間やゲストチューターの藤村記一郎さんの話を真剣に聞き充実した時間を過ごすことが出来ました。

本当に自分が作詞・作曲できるのだろうか？と半信半疑で臨んだのが、うそのようでした。何かを感じた時、映像に映し出してみる（スクリーンのように）そこから言葉が生まれてくるということや、「歌は3分間のドラマである」という言葉も印象に残りました。

夕食（カレーライス）後にそれぞれ持ち寄った詩（うた）についての説明がありました。その中で武田夫妻の、大間原発のことを歌った曲を聴いてとても感動しました。その後、私は、函館のテーマソングを創るグループへ入って、函館らしさや最も伝えたいことなどをテーマとして詩にするという作業に短い時間ですが、関わることが出来ました。

アルト M. I

### 私の教員スタートの原点は創作曲でした！



今年の創作合宿に講師として、藤村記一郎さんが来るよと聞いて、迷わず参加しました。というのも、私が教員になるきっかけは、まさしく藤村さんが創作した合唱構成「青春は嵐の中に」という創作曲に感動してのものだったからです。30数年前、研究職を目指して進学した農学部大学院1年生の時、教育学部の友達に教育のうたごえ祭典で発表された藤村さんの合唱構成のテープを聴かせてもらいました。その曲に感動し、やはり人間相手の職業に就きたいと教職を取りました。「♪♪・・・今も、ラーメンすすってますか、採用試験今年も受けますか。学生時代に活動したてから公立は無理かなと、言っていましたね。僕も教師になろうとしています。あなたがいつか言っていましたね。人は歩くことを覚えると、転ぶことも覚えると・・・♪♪」今も、忘れられない曲を口ずさむと、あの感動がよみがえって胸が熱くなります。

バス S. I